

○議長 横尾 武志君

6 番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

6 番、田島憲道です。最後までよろしくお願ひいたします。

漁業を取り巻く環境は、環境の変化による漁獲量の減少、原油の高騰、後継者不足による高齢化など厳しい状況に置かれています。この芦屋町でも浜崎や柏原地区において、その切実な現実を目の当たりにすることができます。

そこで、質問要旨 1、水産資源の減少や後継者不足などの対応施策として、芦屋町の漁協では現在ヒラメやアワビの放流事業を行っているが、その取り組みをお尋ねします。

続いて、質問要旨 2、平成 13 年 6 月にオープンした海の駅は、オールシーズンに対応した観光施設として好評を得てきたが、漁獲量の減少等により年々売り上げが減少しています。今後の対応やその取り組みをお尋ねします。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

件名、漁業振興について、要旨 1、芦屋の漁協でのヒラメやアワビの放流の取り組みについてお答えさせていただきます。

まず初めに、漁業施策につきましては、本町の漁業は小型船舶による沿岸漁業が主で、沖ノ島、白島周辺を漁場としています。漁業基地としましては、芦屋港湾及び柏原漁協を擁し、漁協形態としましては、それぞれ、釣り、刺し網漁業を主としております。また、漁業運営の効率性を高めるために、平成 16 年に、芦屋、柏原、岡垣の、波津の 3 漁協の合併により遠賀漁協が誕生しております。

近年は、水産資源の減少等の問題や漁協運営及び漁業所得の安定を図るため、「とる漁業からつくり育てる漁業へ」と放流事業を促進しております。平成 4 年から 10 年まではパイロット事業として、ヒラメやアワビなどの放流事業に取り組んでまいりました。平成 11 年より、遠賀漁協単独で放流事業を実施しているところであります。

過去 3 年間の実績としましては、平成 21 年度につきましては、アワビ 1 万 3,000 個、ヒラメ 1 万 8,000 尾、赤ウニ 1 万個、平成 22 年度、アワビ 1 万個、ヒラメ 1 万 8,000 尾、赤ウニ 1 万個、平成 23 年度、アワビ 1 万 5,000 個、ヒラメ 1 万 8,000 尾、赤ウニ 1 万個を放流しております。

続きまして、要旨 2、海の駅の今後の対応やその取り組みにつきましてお答えさせていただきます。

## 平成 24 年第 2 回定例会（一般質問）

まず、海の駅の建設の経緯につきまして、少しご説明をさせていただきます。平成 3 年に当時の柏原漁協が開始しました「柏原活魚センター」は、地域の活性化と漁獲物に付加価値をつけることを目的に始まりました。

その後、右肩上がりで売り上げを伸ばし、平成 13 年 6 月に軽食テラスを備えた海の駅を再建築しております。この建築に当たっては、福岡県が 50%、町も 25% の補助金を交付しております。

その後、遠賀漁協単独で食堂、厨房、トイレ等の増設を行い、それから売り上げは順調に伸びていき、平成 17 年度には 1 億 7,300 万円の売り上げを記録しました。しかし、近隣市町村において同様の施設の開業や漁獲量の減少などにより、売り上げは年々減少をし続け、平成 23 年度は 8,900 万円となっており、ピーク時の 51% まで落ち込んでいるのが現状であります。経営主体が遠賀漁協であるため、まずもって経営体が経営努力を行っていかねばならないと考えております。

昨年度は、経費削減として大幅な見直しを行い、人件費の削減や仕入れ経費の見直し等を行い、健全経営ができるよう努力しているとお聞きしております。

町の取り組みとしましては、町外への PR として、海の駅を含めて芦屋町の観光を情報発信するとともに、メディアへの PR を行っているところでございます。

以上でございます。

### ○議長 横尾 武志君

田島議員。

### ○議員 6 番 田島 憲道君

要旨 1 について、2 回目の質問をします。

いろんな取り組みについては、すべて漁業従事者、そして、その家族にとってプラスになっていかなければいけないと思いますが、町内の 2 つの地区で漁師の高齢化や廃業、廃船の話を目にします。今現在の遠賀漁業組合内の芦屋本所と柏原支所のそれぞれの漁師の数、正組合員、準組合員ありますね、総数、そしてその彼らの平均年齢をお尋ねいたします。

### ○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

### ○地域づくり課長 松尾 徳昭君

芦屋本所と柏原支所の正組合員及び準組合員について、ご説明いたします。

芦屋本所では、正組合員、準組合員合わせて 39 名、平均年齢は 56.6 歳、柏原支所では、正組合員、準組合員合わせて 40 名、平均年齢は 64.9 歳で、年齢構成を見ますと芦屋本所につきましては、30 代 8 名、40 代 5 名、50 代 4 名、60 代 15 名、70 代以上 7 名となって

平成 24 年第 2 回定例会（一般質問）

おります。

柏原支所につきましては、20代1名、40代1名、50代8名、60代17名、70代13名となっております。本所、支所あわせて、65歳以上につきましては65%という形で高齢化が進んでいる状況であります。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6番 田島 憲道君

国が5年に一度出してます、「漁業センサス」というものがありますが、2008年度版、これ男子の自営漁業就業者数、わずか11万2,000人のうち、55歳以上の割合は7万9,000人、これ、70%になります。で、20年後には自営の漁業者は今の30%程度にまで減少するものと予想されています。芦屋町でも全く同様の傾向でして、両地区総数79名でしたか、かなりこの、高齢化が進んでいます。

そこで、この7、8年前ぐらいから長老がおやめになったりとか、棒受けですか、網漁などをやってるところが廃業、廃船して、後継者である若手が丘に上がって新たに就職についたりとか、そういう事態を耳にしています。こういった状況は担当課では把握しているのでしょうか、お尋ねします。

それと、浜崎と柏原のそれぞれの水揚げ高、その合計をお伺いします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

後継者の、まあ、やめられたという形につきましては、状況的には、詳しいことについては担当課のほうでは、申し訳ございませんが把握はしておりません。

2番目の芦屋本所と柏原支所の水揚げ高についてご説明をいたします。

水揚げ高につきましては、芦屋本所は1億3,963万8,000円で、内訳につきましては、イカ釣りが5,520万6,000円、一本釣り4,835万8,000円、ごち網3,030万8,000円、刺し網158万8,000円、その他の漁法の合計で418万1,000円となります。

柏原支所につきましては、水揚げ高9,337万2,000円で、内訳につきましては、イカ漁2,668万6,000円、一本釣り1,490万9,000円、ごち網281万8,000円、建て網831万2,000円、かご漁業1,266万4,000円、その他の漁法で1,572万1,000円です。

以上です。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

水揚げ高についてですが、これ、計算すると、組合員 1 人当たりになると 300 万円ぐらいなんですよね。まあ、これは職人の世界だから稼ぐ人は大手の企業の部長さんぐらいはある方もいますが、これは上位 5 本指に入ればサラリーマンをするよりかはいいかもしれません。しかし、この水揚げ高から燃料代やテグスなどの道具、各種支払いがありますね。それに、燃料、ここ 10 年ぐらいで倍以上になっていますね。減免措置あるでしょうが、聞くところによると 1 リットル当たり 30 数円だったのが、現在 86 円で 2 倍以上も高騰しています。

水揚げも減っている中で、魚の値も下がっている。それに、利益は 10 年前よりも半分以下に縮小している状況です。これでは、その漁師の子どもたちは、まあ、親の苦労を見て育てるわけですから、苦労は多くてもサラリーマンより稼げるなら漁師として後を継ぐでしょうが、今は時代が変わって、以前のようにどんぶり勘定ではいけない時代です。GPS とかにこう、打ち込み作業、まあ、緻密な作業はですね、あと仲買さんとの連絡や交渉、そしてそのハイテク機器の導入など設備投資があります。また、その船を新しく建造するとなると、これは 10 年で償還していかなくちゃいけないということで、半分ぐらいは頭金入れなくちゃいけないと、3,000 万円とかいうような話を伺っております。漁師を継ぐというのは本当、大変厳しい実情だと思います。

そこで、安定した収入を得るための「とる漁業からつくり育てる漁業へ」の取り組みの中で、芦屋町は県と協力してこれまで養殖や放流事業、取り組んでいますなかなか結果は思うように出てないようにあります。以前、ヒラメの養殖を積極的に取り組んでいると、まあ、これは事業化するんだということを聞いたことがあります。現在はどのようになっておるでしょうか、お伺いいたします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

ヒラメの中間養殖事業につきましては、平成 15 年に終了しております、その後は漁協単独での放流事業が主という形で、最初に答弁させていただきましたとおりの放流の実績という形になります。

以上になります。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

ヒラメの養殖については、まあ、疫病対策が大変難しいと聞いてます。で、今現在取り組んでいる放流事業、やるからには商業ベースに乗っていけるよう、採算とれるように取り組んでいただきたいと思います。芦屋町からも後押しをお願いしたいと思っております。

余談であります、冬に、糸島あたりをドライブするとカキ小屋が盛況であります。これは地元産のカキの養殖を使っていると聞いております。最近では、福岡でもこのカキ養殖の試験的な取り組みを始めたと聞いてます。芦屋、柏原では穏やかな海岸線だからちょっと難しいと思いますが、カキ養殖には適しているとは思えんのですが、今の厳しい状況をこう打破するには、「つくり育てる漁業」として何か試行していかなければいけないと思います。ここに、新たに問題提起したいと思います。冬の漁は大変厳しいと誰もが知っているんですが、しかし、全国的にはホタテやカキの養殖で、これが成功して漁業と収入と比較的安定しているところがあります。そういった地域にはちゃんと後継者が育っております。

次に、観光型漁業の施策として推進している海の駅についてお聞きします。

筑前あしや「海の駅」、このネーミングは大変すばらしいですよ、これ。ヨットやクルーザーで旅している人がこう、釣り客が立ち寄りたりとか、地元の海産物を物色したりする中で、隣接のレストランで食事でもしようか、家族で海鮮バーベキューでもしようかとそんな気分に合わせてくれますが、しかし、オープンして10年経過して売上げのピークも半分近くも落ち込んでいるという、そういった状況の中、こちら、事業としては大きく2つに分けられると思うんです。レストランでの飲食物の提供と地元の飲食店に卸している小売などの、物販ですね、魚の販売に分けられると思うんですが、平成23年度の売上高8,900万円、その中で、レストランでの売上げと生けすや物品などの販売の割合を教えてくださいませんか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

平成23年度の売上高の8,900万円の内訳について、ご説明いたします。

活魚販売につきましては2,334万9,000円になります。干し物関係につきましては1,455万7,000円、食事部門5,124万9,000円となっております。対前年比率で12.8%の減という形にはなっております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

## 平成 24 年第 2 回定例会（一般質問）

これ、やっぱり魚の直売よりかレストランの売上げがメインとなってるんですね。こちら、このレストラン、海鮮バーベキューが売物のレストランですが、僕は結構好きでよく行くんですよ。で、町外の方をつれていくと大変喜ばれます。

定食メニュー、これは豊富にありまして、まあ、ちょっと刺身定食なんかは1,680円と確かに高いんですが、しかし、この、ボリューム感があるんですよ。まあ、漁師が豪快にこう盛り付けして、海の男感があります。ワンコインで昼食を済ませているサラリーマンにとってはちょっと不満があるでしょうが、これは観光客に特化すればそれはそれでいいと思うんです。しかし、この、最近、売りであるボリューム感が少なくなってきた、値段と比べるとちょっと不満が残ってるんですが、これは利益に走ってるなという感じがしまして、何かあったんだろうと思ってる所でありまして。

また、直売されてる魚は地元のものが多いようにあります。生きたイセエビなんかがありますが、これはもちろん仕入れてあるんですよ。また、それを活かしてある生けすの維持管理、これ大変だと思うんですよ。プールのような生けすが幾つかあって、まあ、見た目、コストパフォーマンス的にはそれは圧倒されますが、子どもさんから見たら水族館があるような感じがするでしょうが、ただ、その水温を一定にするために、これは夏場の電気代など大変なコストがかかっていると思います。

今、地元の魚が、水揚げされた魚があるというか、市場から仕入れてくる魚が泳いでいると、それなら必要な量だけ仕入れればいいんじゃないかなと思っておりまして、また、生けすもあんなに大きくなくてもいいんじゃないかと思えます。普通、大体漁協が直営で直売所をやっていると聞けば、すべて地ものものと考えちゃいますよね、これが宗像の道の駅との違いじゃないのかなと。で、まあ、売上げが落ち込んでいる要因だと思います。

生けすの中が地元の魚でいっぱいになる。これが、本来漁協が取り組むべき直売所の姿じゃないかなと、生きてる魚買えるんだと。漁協の直売所、生きてる魚がいつでも買えるという、そういう直売所を構築していったらいいと私は思っております。

そこで、今年度観光基本構想をつくるということ予算計上されました。堂山周辺整備をどうするか、これは、海の駅の今後を左右する重要な課題になってくると思います。「柏原漁港を漁業ゾーンとレクリエーションゾーンとの区分をし、漁業者や観光客などの利用向上を図る」と、第5次総合振興計画の中で記されています。今後の町の対応についてお伺いいたします。

### ○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

### ○地域づくり課長 松尾 徳昭君

今年度観光基本構想を一応作成するようしております。その中で、田島議員さんが言われま

平成 24 年第 2 回定例会（一般質問）

したとおり、第 5 次総合振興計画の中で、漁業の基盤整備として柏原漁協を漁業ゾーンとレクリエーションゾーンに区別して、観光客の集客等を図りたいというふうに考えております。これにより、この堂山一帯を含めた海岸線や「芦屋釜歴史の里」、「マリンテラスあしや」、魚見公園等の周回性も向上したいというふうに考えております。これにより観光客などの交流人口がふえ、ひいては海の駅に多くの方が来場してくれるのではないかとというふうに考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

国の水産白書、それでも、「漁業・漁村の活性化のためには、漁村の新鮮な水産物、優れた自然環境、伝統文化等、地域資源を活用し、その魅力を向上させることが重要」とあります。これは、まさに我が町の伝統的なシンボル——堂山を中心にいそ遊びができる、釣りができるエリア、例えば釣り桟橋や釣り公園などが整備されれば、そこでとれたもの釣ったものを海の駅で調理してもらったり、今も実際やってると思いますが、そういう環境整備、漁港の整備が進めば大々的に海の駅をアピールできますし、オールシーズンに対応できる観光振興策として、いわれているような交流人口の増大に寄与できるんじゃないかと僕は信じております。

で、これから取りかかる観光基本構想の中では、このあたりをしっかりと明記していただきたいと思えます。

最後に、町長にご所見を伺いたいと思えます。

○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

非常に、まずは後継者の問題でございますが、非常に悩ましい問題でございますして、芦屋町にとりまして、田島議員も先ほど来言われておりますように、やはり芦屋といえば海、海といえば魚というふうに昔から代名詞になっております。そして、その後継者がだんだんもう少なくなってきたおる。まあ、全国的な傾向ではあるんですが、漁業に限らず農業従事者の方もそうなんですが、その辺、できるだけ芦屋町とすればいろんな形の中で、今も行政としてできる応援はさせていただきます。おつもりでございます。

それから、観光基本構想につきましては、本年度もコンサル委託ということに、予定でございます。今、まさに言われたように、これはまだ今コンサル委託しておりますして、コンサルがどのような形で上がってくるかわかりませんが、まさに、やはり堂山の入り口から左側に、何ですか、板をこう、ひいて歩けるようにして、洞山まで。それから、港から上は釣り公園ができれば

平成 24 年第 2 回定例会（一般質問）

いいなというような、これはもう私が個人的な考えなんですけど、ただ、そこにいわゆる漁協組合との話し合い、生産者との、地元の話合い等があると思います。そして私は、それは、そういうことを組合にもう委託するということが後継者の方のやる気を促すという形にできればなと思っております。

それから、前々から、もうこれも個人的なことなんですけど、「いそかぜ」前のほうは昔は海水浴場でにぎわっておったんですが、あそこにプレジャーボートの係留をさせていただいて、で、その係留費、そこも組合に管理委託させていただいて、とすればその遠賀漁協としての資金が生まれて若い方もそこに残って、従事者の方も後継者の方もやる気を起こすのかなと、これはもうあくまでも個人的な考えでございます。

まあ、どういう形の中でコンサルが上げてくるかわかりませんが、やはりそこは漁業従事者の生活のことも考え、それから芦屋町の観光の目玉になればなと思っておるわけでありまして。

それから、海の駅の件につきましては、もう、これ、私できた当初からよく知っておりまして、前組合長は休み返上して、土日一生懸命されておったわけでございますが、やはり、先ほど課長が言いましたように、近隣に——一番大きなのはやっぱり宗像の道の駅、かなり道の駅の影響が大きいのかなと思っておるわけでございますが、類似したものが若松地区の海岸のほうにもできておるということですので、やっぱり分散して、できた当初はテレビ局も何度も来て、マスコミ関係も押しかけておったんですが、まあ、この頃マスコミも取り上げてくれないということですね、なかなか厳しいものがあるわけでございますが、そういう面で観光という形の中で芦屋に人が来、そして、そこで食事をして帰っていただくというのが一番芦屋にとって望ましいことなんですけど、そういうことにつきましても、スポットを一つずつつくって行って、芦屋に来て、滞在型という形の中で推し進めるのが芦屋の観光政策ではないかと思っております。まあ、田島議員、るるおっしゃられた考えは共通するものがあるんじゃないかと思っております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 6 番 田島 憲道君

ぜひ、海の町芦屋、観光立町芦屋の再生のために力を注いでいただきたいと思っております。

以上で終わります。

○議長 横尾 武志君

以上で、田島議員の一般質問は終わりました。